
戦争を生き抜き平和を求めて…。～沖縄の傷跡～

赤神 裕

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦争を生き抜き平和を求めて…。 ～沖繩の傷跡～

【Nコード】

N0624S

【作者名】

赤神 裕

【あらすじ】

私が高校二年生のころ沖縄修学旅行という行事があった。それはただ単に沖縄を満喫するだけでなく、沖縄独特の文化や歴史を学ぶということ。二日目の夜に行われた平和講和がとても印象深く、今でも思い出すと涙してしまうほどである。

この時私はとある文を書いた。おそらく感想文だと思うのだが、感想と言うよりも誰かに訴えかけているような文だった。そして今こうして棚から引っ張り出して見てみるととても懐かしく、その時

の情景が浮かび上がってくるようだ。ここにその時の文を載せたいと思う。できるだけ多くの人に知ってもらいたいから……。

(前書き)

久しぶりに書きました。今回は私が実際に体験した事を書きたいと思います。これを読んで少しでも誰かのためになれば幸いです。

それではどうぞ。

二日目の夜に行われた現地のおばあちゃんによる平和講和。私はこの話を聞いて戦争時代はとても残酷な頃だったということがひしひしと伝わってきた。仮にこのおばあちゃんをミラさんとする。

ミラさんの話によると、小学生は身体が小さいという理由で排水溝の中など狭い場所で働かされたそうです。人々は平和に暮らしていたはずなのに、米軍と日本軍の戦争によって大きな被害を受けました。校舎にまで軍隊が押し寄せ、無理やり基地にしました。学生たちは襲撃から身を守るためにガマと呼ばれる防空壕に逃げましたが、その道中次から次へと仲間を失い、泣く泣く逃げ切った時には気づけばその人数は半分くらいになっていたそうです。ガマの中は暗くただ闇が広がっているだけでした。ろうそくの灯だけが頼りになり、中はとても蒸し暑かったと聞きます。

私は実際に轟壕ごうごうと呼ばれるガマの中に入りました。ミラさんの言われた通り、暗く、蒸し暑く、例えるならサウナの中にいるようでもあります。話を元に戻しましょう。

中学生にもなると、男子の多くは軍隊に入れられ、女子は怪我人を看護するいわゆる看護師になりました。何日も風呂に入っていないため、ウジがわき、痛みにも苦しむ姿を見ていられなかった。とミラさんは語ります。

また話はそれてしまいますが、事前学習で見た“GAMA

月桃の華”でその映像が流されましたが、思わず目をつむってしまふほど衝撃的なものだったのを今でも覚えています。また話を元に戻しましょう。

ミラさんは高校生になり、学徒看護隊（通称：ひめゆり部隊）に入りました。先にも書いたように、ミラさんは人々の苦しむ姿を見ていられなかったと語りました。

いくつかのガマは日本軍の隠れ家として利用されるようになり、ミラさん達一般人はそこから追い出されてしまったということもあったそうです。水もなく、食料にありつけず餓死してしまった人を片付けるのもガマの中にいる一般人の仕事でしたが、どうすることもできずにそのまま放っておくと腐臭がすごかったといえます。

水といえどもあるのは泥水でまともな水にありつけなかった時代……。それでもミラさんは美味しかったと涙を流し語りました。

米もガマの外に出ないと手に入れることができなかったために、危険ながらも外に出なくてはなりません。相手はレーダーのような機械を持っているため、見つければ攻撃されます。バラバラとそこらじゅうに米をこぼしながら無事ガマに戻ってきたときにはほとんど残っていないかったです。そのわずかな米も軍隊が九割ほど持って行ったので、餓死する人は多いというのですから、本当に酷い時代だったことが分かります。拳銃の果てには。

「お前らの命を守ってやってるのに、これだけの米で足りると思うか？ さっさと次を持ってこい」

そう言われて、また外へ放り出されてしまうこともあったそうです。

この軍人達は自己中心的で他人の事を全く考えない人たちだと感じました。

戦争はいつ起きてもおかしくないこの時代。他国とぶつかること
があれば、ボタンひとつですぐにでも襲撃を受けてしまいます。そ
れを起こさないためには我々が世界を変えていく必要があります。
我々が感じた事や思いを次の世代へと受け継いで。いや、受け継が
れていかななくてはならないのです。それができるのは沖縄の文化や
歴史に触れた、まぎれもない我々なのです。誰が一番偉いというこ
とはないのです。人は皆平等なのです。これからも世界は平和でな
くってはならないのです。

他国とぶつかることがあっても……。それでも戦争は二度と起こ
してはならないものだと思っと思っています。

戦争を起こす前に気付いてほしい……。ちょっとしたことでも戦
争の火種になることもあるのです。互いに尊重し合って、決して憎
まぬ事。それこそが第一に考えることではないでしょうか？

それを考えると範囲を小さくして、差別やいじめも同じことだと
は思いませんか？ やる方は冗談でもやられる方はとても辛いので
す。とても落ち込むのです。それが死を選ばせてしまうこともある
のです。

そして何より、あなたは今、本当に誰かを憎んではいませんか？
やられても憎むのではなく、まず相手がなぜこのような事をして
きたのかを考える力も必要だと思います。なかなかそれができない
のは分かります。ですが、ちょっとその場で足を止めて考えてみて
ください。

悲しみ・憎しみ・苦しみはやがて大きく膨れ、人に誤った行動を
取らせてしまうこともあるのだ。ということができるだけ多くの人
々に知ってほしいと思います。私も伝えていきたいと思えます。

あなたを、嫌いになりたくないから……。

(後書き)

いかがでしたか？

みなさん「平和、平和」と言いますが、そこは本当に平和なのでし
ょうか？

少し周りに目を向けると、平和と呼べる状況でない事があるかと思
います。

少しでも皆さんに知ってもらいたい。

それでは、またの機会にお会いしましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0624s/>

戦争を生き抜き平和を求めて...。～沖縄の傷跡～

2011年10月8日16時10分発行